



顕微鏡の授業風景



整形外科講義

帝国女子医学専門学校

奥田和子 三輪重雄

平成二四年(二〇一二)に放送されたNHKの連続テレビ小説『梅ちゃん先生』の舞台は蒲田でした。第二次世界大戦末期の空襲(城南空襲)により焦土と化した蒲田のバラックに家族六人で暮らしていた『梅ちゃん』こと下村梅子がヒロインです。梅子は父の医師としての姿に感銘を受け、医師を志します。梅子は必死で勉強し、「城南女子医学専門学校」に合格します。

『梅ちゃん先生』のオープニングに、取材協力…東邦大学とクレジットされており、東邦大学の前身である「帝国女子医学専門学校」が「城南女子医学専門学校」のモデルであると言われるのも、もつともだと思えます。

「帝国女子医学専門学校」は、関東大震災から間がない大正一四年(一九二五)、額田豊(ゆたか)、額田晋(すすむ)の兄弟により開設されました。また、帝国女子医学専門学校付属病院も開設されました。

額田兄弟は、岡山県で曾祖父の代から医師を務める一家に育ちました。兄弟の父である篤太氏は、岡山市に初めて「避病院」と呼ばれる伝染病専門の隔離病院を開設して院長を務めました。

額田豊氏は、明治三八年(一九〇五)に東京帝国大学医科大学を卒業し、一九〇七年には、ドイツのミュンヘン大学に留学しています。氏が女性に対する科学教育の必要性を感じたきっかけは、このドイツ留学にあったといわれています。

一九〇九年に帰国し、翌一九一〇年に神田に医院を開業しました。その後、麻布に額田病院、鎌倉に結核療養所である額田保養院(現在の額田記念病院)を開設しました。弟の額田晋氏も、一九一二年に東京帝国大学医科大学を卒業し、一九一八年にはハーバード大学に留学しています。

額田豊氏は予てより教育に非常に興味を持っており、「東邦大学三十年史」によると、関東大震災の翌年の一九二四年八月に、学校の設立計画を弟の晋氏に相談しています。翌九月には、現在の東邦大学医学部がある土地を選定し、十二月には設立認可申請書を文部省に提出しています。額田豊氏は、ほぼ同時期に日本大学医学部の前身である同大専門部医学科の創設にも関わっていました。「帝国女子医学専門学校」(以降、「帝国女子専」と略記)は一九二五年三月十日、日大の医学科も同年同月の三十一日に文部省の認可を受けました。

額田豊氏は帝国女子医学専の初代理事長、額田晋氏は初代校長に就任しました。ちなみに、額田豊氏は日大専門部医学科の初代医学科長を兼務することになりました。

額田豊氏が女子の教育にこだわったのには、理由があり

昭和32年の
キャンパス全景



寄宿舍の中庭



ました。当時、高等教育の対象は男子が基本でした。しかし、男子にだけ医学教育を行うようでは、地方医師が不足していること、そして戦争で出征した場合には、国内全体が医師不足に陥るおそれがありました。医療の担い手には女子への医学教育が不可欠であると訴え、女性が医学を学べる場所としてつくりあげたのがこの帝国女子医専でした。(参考文献一より)

入学した後は、第一学年で「普通学(数学、物理、科学、外国語など)」、第二学年で「基礎医学」、第三学年で「臨床学(講義)」、第四・五学年で「臨床医学(病院実習)」を学びました。四〜五年次に実施される病院での実習は、通称「ポリクリ」と呼ばれていました。第一回卒業生は全員が一回で医師国家試験に合格し、世間を驚かせたそうです。

帝国女子医専が開校した一九二五年頃の学校周辺には水田が広がり、梅屋敷の駅から医専の校舎や寄宿舍が見通せたそうです。学校が発展するに連れ、文房具店、書店、食べ物屋などが学校周辺に軒を並べるようになり、行きかう女子学生で賑わったそうです。

開学の翌年大正十五年(一九二六)に「付属看護婦養成所」が開設され、また更に翌年の昭和二年(一九二七)、帝国女子医専に薬学科が増設された。昭和五年(一九三〇)には、「帝国女子医学薬学専門学校」に校名が変更されました。

一九四一年には、「帝国女子理学専門学校」が開設され、ここに医・薬・理の3科がそろった女子の専門学校となりました。

しかし、第二次世界大戦の戦局は激しくなり、昭和二十年(一九四五)四月十五日深夜、大田区(当時は大森区・蒲田区)のほぼ全域(羽田、大森、池上、荏原、蒲田)に米軍の大規模な空襲(城南空襲と呼ばれています)があり、病院、木造校舎、寄宿舍が焼けてしまいました。ただ、本館だけは焼失を免れました。この四ヶ月後の八月十五日、日本は終戦を迎えました。

この二カ月後の十月には、焼け残った本館を使って授業が再開されました。そして額田豊氏は学校再建に向けて動き始めました。再建の方針は、医学科は本館を修理して教室にあてる、病院は鉄筋コンクリート造の旧建物を修復して使用、薬学科と理学専門学校が習志野の旧陸軍施設跡に移転するというもので、移転は昭和二十一年(一九四六)に行われました。

一九四七年には、「帝国女子医学薬学専門学校」を「東邦女子医学薬学専門学校」、「帝国女子理学専門学校」を「東邦女子理学専門学校」と、帝国を東邦に変えた校名にしました。そして、「東邦医科大学(旧制大学)予科」が開設されました。

一九四九年には「東邦薬科大学」、一九五〇年には「東邦大学理学部」が開設されたことにより、自然科学系総合

現在の東邦大
学医学部本館



戦時中の本館
(迷彩を施している)



大学として「東邦大学」が誕生しました。
この地に女子医専として誕生した「帝国女子医学専門学
校」は、現在「東邦大学」となり教育と地域の医療を担っ
ています。

《参考文献》

*一：連載「東邦大学のルーツをたどる」学校法人東
邦大学 広報No. 223/6月号～No. 244/4月号)

*二：「女子医学生が過ごした日々」額田記念東邦大学
資料室

《画像提供》

額田記念東邦大学資料室